

どうぶつこうえんニュース

Chiba Zoological Park News

No. 21



どうぶつと私…(16)

Animals and I

ミクロの恐竜学への道

The Road to Micro-dinosaurology

福田 芳生

千葉県衛生研究所主任研究員

(日本古生物学会特別会員)



私は小学校3年生の頃から、熱心な恐竜少年でした。今でいう“恐竜おたく”です。ジャングルの奥のしーんと静まり返った湖から、ヌラヌラした不気味な恐竜の首がぬーと突き出している想像図をみただけで、もう身体中がぞくぞくするほど興奮したものです。

是非とも恐竜時代に行ってみたいという願望が高じて、とうとう古生物学者になったという訳です。古生物学者になったとは言うものの、恐竜の研究をするには、肝心の骨の化石がなくてはどうにもなりません。ガソリン無しで自動車を動かせと言うようなものです。日本から恐竜の化石が出るには出ますが、恐ろしくその数が少ないためでしょうか、見つかった骨は国宝級の美術品のように大切に保管され、それを切断して調べるといったことなど、到底望むべくもありません。

なにしろ、ガラスケース越しに対面できるだけでも幸運な方なのです。それですっかり弱っていた時、アメリカ産の恐竜の化石骨を調べるという、願ってもないチャンスが訪れました。その折り、入手した骨のカケラを研究室に持ち帰り、電子顕微鏡で観察したのが、私の終生の研究課題となった“ミクロの恐竜学”の始まりです。

さて、電子顕微鏡で骨を観察するには、化石骨を小さく切って酸で腐蝕させなくてはなりません。それから金メッキして電子顕微鏡に掛けます。チラチラ動く画面に初めて姿を現した恐竜の骨細胞は、それを見る者に、まるで異次元の世界に踏み込んだような気持ちにさせます。

この世界に先がけて、遂に恐竜の骨細胞を探し出したのだという感動は、もう大変なものでした。なにしろ、土曜日から日曜日の夕方まで一睡もせず電子顕微鏡の画面をにらんでいたのですから。それは、今からかれこれ10年以上昔のことになります。いくら時が経ってもつい昨日のこの様に記憶しています。恐竜の骨細胞というのは、ひどく哺乳類のものに似ていて、骨の主成分となっているカルシウムやリンの代謝能が、ずば抜けて高いことを示しています。

そんなことから、恐竜が鳥類と同様、温血動物であったとする最近の学説は、信じてよいように思えます。このような電子顕微鏡で恐竜の化石骨を調べる“ミクロの恐竜学”は、今後ますます発展し、恐竜について興味深い多くの情報がもたらされるでしょう。

目次

| | |
|-------------------|----|
| 表紙 ボタンバト | 1 |
| どうぶつと私⑬ | 2 |
| ミクロの恐竜学への道 | |
| グラビア | 3 |
| カンムリバト | |
| 特集 「環境と動物たち」 | 4 |
| 飼育レポート | 5 |
| ゲルディモンキーの人工哺育について | |
| 動物公園の動物⑬ | 6 |
| 動物公園の植物⑥ | |
| 飼育よもやま話 | 7 |
| 動物公園日誌から | 8 |
| 写真コンクール | 10 |
| 健康管理センターから | 11 |
| 平成7年度行事予定表 | |

表紙の動物説明

ボタンバト

マレー半島や、ボルネオ、スマトラなどのインドネシアの島々のジャングルやマングローブの林に生息し、枝になったやわらかいくだものや、サルやサイチョウが落とした果実などを好んで食べます。

雌雄とも美しい色彩のハトですが、雌は雄に比べると、ややくすんだ色をしています。

撮影・宮川 千尋

動物飼育数

| | | |
|-----|------|------|
| 哺乳類 | 69種 | 482点 |
| 鳥類 | 91種 | 388点 |
| 爬虫類 | 4種 | 22点 |
| 両生類 | 1種 | 2点 |
| 魚類 | 2種 | 13点 |
| 総計 | 167種 | 907点 |

平成6年12月31日現在

カンムリバト

Blue Crowned Pigeon

ハト目 ハト科



撮影 宮川 千尋

最も大きなハトで、カンムリバト、ムネアカカンムリバト、オオギバトの三種があり、バブアニューギニア島とその付近の島に生息しています。動物公園ではその中のカンムリバトを動物科学館のバードホールに展示し、毎年のように繁殖しています。現地ではよく地上で生活し、木の上に巣を作り、卵を一つ生みます。今日ではその数が激減し、嚴重に保護されていますが、同じ仲間のドーデーのように絶滅しないよう、動物園でも増やす努力が必要です。

宗近 功(Isao Munechika)

環境と動物たち

Animals and their environments

日本のトキが絶滅に向けてカウントダウンに入り、ニホンカワウソが見られなくなって久しくなった今日の日本を紹介するまでもなく、さまざまな動物が生息する自然環境が狭められています。その種の生存を危ぶむ声も多く聞かれます。

野生の動物にとっては、限られた生息環境で暮らし、そして子孫を残す大事業を成し遂げてゆかねばなりません。そのためには環境への適応を最大限に示してゆくことが必要といえます。長い年月をかけて獲得した、それぞれの動物の独自の機能、形態、そして習性。生活様式への適応というものが、各種それぞれ発見、みることが出来ます。このような現象を、適応放散（てきおうほうさん）と一般的に呼んでいます。

今回の特別展においては、動物の生息する生活空間を、空・樹上・地中・砂漠・水中の5ブロックに分類し、それぞれの空間への適応を哺乳類を例に紹介しています。

空への適応：コウモリに代表され、その翼は薄い膜状でありながら、強い弾力を持ち強大な筋力、皮膚で時速50キロ以上で飛びます。空を飛ぶことのできる哺乳類はコウモリだけです。ムササビやヒヨケザルはパラシュートのように滑空して移動します。



樹上への適応：物をつかむ強い指、手を発達させ、そして対向する親指を持ち枝をしっかりつかみます。また立体的視野を可能にさせるため、両眼が前面に位置しています。

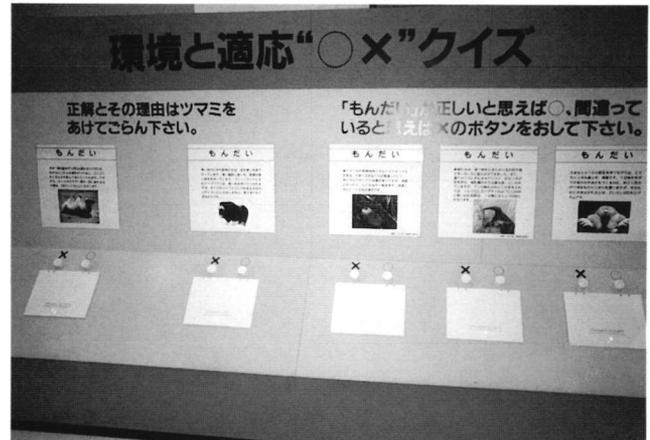
地中への適応：モグラのように短いが強大な前足がシャベルの役目を果たし、すばやく地中にもぐる術（すべ）を発達させています。視力よりも嗅覚を発達させています。モグラは穴掘りのチャンピオンにふさわしい地下生活者です。

砂漠への適応：ラクダでは足が砂の中に埋まらないように広がりを見せ、砂塵の舞う時には鼻が閉鎖するなどの適応をみせています。小型の哺乳類ではジャンプをする大きな後肢を発達させています。

水中への適応：アシカに代表されるように体型は流線型をなしており、すばやく獲物を捕えるのに適しています。水かきを足に持っている地上種では、水での生活空間の拡大をみることが出来ます。

つぎに世界の大陸の中で特徴ある種の動物を多くみることが出来るのが南アメリカとオーストラリアの各大陸ではないでし

ようか。特に南アメリカでは独自の適応をみせている種が多く、一日のうち18時間はじっとしているといわれるナマケモノは、かぎ状の強い爪でしっかり枝につかまります。他にシロアリを主食とするアリクイのなかまたち。甲（よろい）でおおわれているアルマジロ。どれをとってもその特徴は引けをとりません。一方、おなかに袋をもつ適応を示したのがカンガルーに代表されるオーストラリア大陸の有袋類のなかまたちです。



そして「環境と動物」にちなんだ「クイズコーナー」も設けられており、厳しい環境に生活しているさまざまな動物たちが、精一杯に適応をみせた様子を学んでもらえるものと確信しています。

最後のコーナーでは世界各地での厳しい環境に生活する動物をその自然条件をもとに紹介しています。熱帯雨林・サバンナ・ステップ・砂漠・ツンドラ・そして高山に分類し、厳しく限られた環境のもとで生活している動物たちの適応した姿を数多く、かつ美しく紹介しています。



今回の特別展ではそれぞれ各地の自然界とそこに生息する動物を紹介することにより、おたがいに依存し合い、利用し合っている事実を学び、地球上各地で起こっている自然の破壊を悲しむばかりでなく、精一杯生きている動物の適応の姿。そのすばらしい技術を認識して、今後それぞれの動物をながめてゆきたいと思います。

飼育レポート

Keeper's Report

ゲルディモンキーの人工哺育について

Hand-rearing Goeldi's Monkey

はじめに

ゲルディモンキーは、南米のアマゾン川上流に分散して分布しており、生息数が少ない小型のサルです。

当園では、1989年8月より飼育をはじめ1994年6月27日に生まれた個体を人工哺育し無事離乳するまでに至ったのでその経過を報告します。

両親

オス・メスともに1989年8月に来園。

餌

午前 ミルクパン（ミルク、パン、骨粉、ハチミツ、AD3）
リンゴ、バナナ、オレンジ

午後 ミルクパン、ミルウォーム又は、コオロギ
リンゴ、バナナ、オレンジ、トマト
煮イモ、煮ニンジン、卵黄

飼育場所 縦 横 奥行
250cm × 150cm × 165cm

人工哺育にする経過

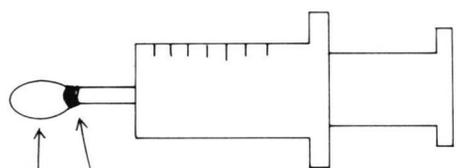
1994年6月27日朝、ケージを見ると床に仔がおちており、母親は、脱子宮をおこしていたのですぐに治療をおこなった。仔は衰弱していたため人工哺育に切り換えた。

人工哺育

○使用乳

明治コナミルク、F&P（エフアンドピー）

○哺乳器具



脱脂綿 ひもでしばる

1 cc、2 cc、5 ccのガラスの注射筒を使用した。

注射針は、先のとがっているところを切りおとす。

○保育器

V-80アトム保育器

○哺育箱

ダンボール箱の小さいものを使用し成長にあわせて取り換えた。箱の中には、タオルをしき、ムートンで作った擬似

親を置き仔がしがみついているようにした。

30日前後より昼間は、465ケージに移動した。

その後は、次第に夜間も赤外灯をつけてケージの中に入れておいた。

哺乳状況

| 日令 | 哺乳回数 | 哺乳量(平均)cc | 備考 |
|-------|------|-----------|--|
| 0 | 7 | 7.1 | |
| 1~7 | 7~8 | 16.4 | 下痢が続いた(1-7日令) |
| 8~17 | 6 | 18.2 | |
| 18~23 | 5 | 21.7 | 離乳食をあたえはじめる(23日令) |
| 24~27 | 4 | 22.7 | バナナをよく食べだす(27日令) |
| 28~35 | 3 | 19.4 | リンゴを少しかじる(47日令) |
| 36~51 | 2 | 18.5 | ミルクパンをすこしずつバットから食べだす |
| 52~60 | 1 | 15.3 | ミルウォームをよく食べるようになる(52日令) |
| 60~ | 0 | — | 成獣の餌をこまかくしてあたえる(56日令より) ピンクマウスを多少食べるようになる(57日令) |

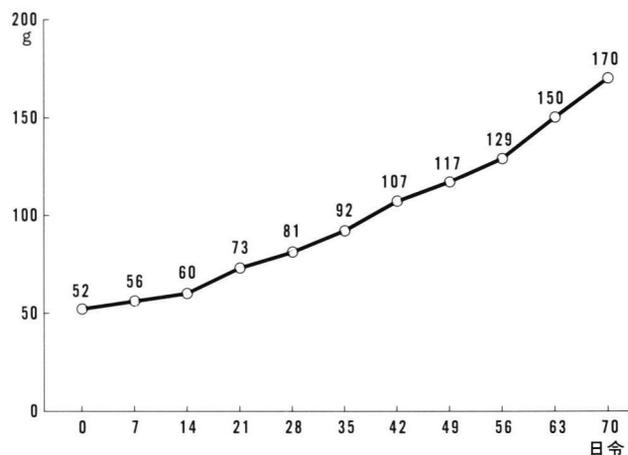
(ミルクの濃度は日令により若干の違いあり)



1日令の写真

成長

(1週間おきの体重測定結果)



まとめ

今回の人工哺育では、初期の段階で下痢をおこさせてしまったことや離乳段階でも問題点はいろいろあったが今後それらを、考慮しながら飼育に取り組み、改良を加えてゆきたいと思えます。

(石井 信一 Shinichi Ishii)

動物公園の動物…⑬

Animals the Chiba Zoological Park

アジアゾウ

Asian Elephant

ゾウは、動物園で代表的な動物の一つです。あの巨体と長い鼻、一度みたら忘れないでしょう。その容姿と愛嬌のある表情から、彼らは動物園の人気者になり、多くの動物園で飼育されてきました。



ゾウはアジアゾウ、アフリカゾウの2種類がいます。千葉市動物公園で飼育されているゾウは、アジアゾウで東南アジアの密林に生息しています。ゾウの雌は子供や若い雄を含んだ群で生活していて、大人の雄は一時的な群になることがあります。通常一頭で生活します。ゾウの生活の大部分は、採食に費やされ、主食は草や木の葉などです。なにしろ、あの巨体を維持するのですから食べる量は大変多く、生息地や環境にもよりますが1日に、100kg~200kgの植物を食べるといわれています。ゾウがこんなに多くの植物を食べるのに使うのは、みなさんご存じの通り鼻です。鼻こそ彼らの最大の特徴です。ゾウの鼻は上唇、顔の筋肉そして鼻が一緒になった器官ですが、その役割は私たちの手のひらに鼻の穴が開いた物と考えれば良いと思います。ゾウの鼻は、食べ物を口に運ぶだけではなく、色々なことをします。物の匂いを嗅ぐことはもちろん、水を含み口に運んだり、身体にかけたりします。また、未知のものを触り確かめたり、他のゾウとからめ合いコミュニケーションをはかったりします。また、鼻はゾウの強力な武器になります。太い丸太のような鼻で一撃されたら、普通の動物はひとたまりもないでしょう。ゾウは地上最強の動物でもあるのです。

その強いゾウも、開発や環境破壊にはかなうことができず生息地は激減し、その数は減ってきています。現在、野生のゾウを守る努力がされています。象牙の取り引きが国際的に禁止されたのは記憶に新しいと思います。また、動物園においても雄雌と一緒に飼育する園が増え、飼育下繁殖の試みが始まっています。アジアゾウはまだ日本では繁殖に成功していませんが、近い将来動物園生まれの子ゾウが見られることが期待されています。

(浅野 洋之 Hiroyuki Asano)

動物公園の植物…⑥

The plants in the Zoological Park

クスノキ

Camphor tree

クスノキはクスノキ科の常緑高木で、亜熱帯、暖帯の植物であるため、分布としては関東以南本州の太平洋側、四国、九州に分布する。成長すると大樹となり幹まわりは3メートル高さは30メートルを越える。日本で最も大きなものが、鹿児島県蒲生のクスノキで、幹まわり24メートル（樹齢推定千数百年）だという。

葉は6~10センチメートル位、光沢があり3又の脈が目立つ。一見見分けられないが、葉のつけ根に小さなふくらみがある。これはダニの入っている部屋である。5月頃黄白色の小花をつけその後黒色小型の果実を結ぶ。

クスノキは、幹、枝、葉の全体から芳香を放つ。これは樟脳の香りである。樟脳とはクスノキが高濃度で有しているものであり、クスノキの幹、枝、葉を蒸留し、その液を冷却すると得られるもので、防虫剤、防臭剤、医薬材料として利用できる。元来、中国、台湾などで生産されていたのであるが、16世紀以降琉球を経由し薩摩に製法が伝来した後、クスノキが多く生育していた九州、四国に広まりその地で盛んに生産されるようになった。しかし現在では化学的にそれを合成する方法が可能となったため、クスノキから樟脳をとることは衰退している。またクスノキは、高濃度に樟脳を有していることから虫害に強く腐りにくいため、古くから仏像、船材、建築材料、家具の材料としても利用されていた。



ところで当園には、正門から動物ゾーンへ導く坂を登ったところ、動物科学館付近、中央広場周囲、レストラン前等、様々な場所にクスノキを植栽しています。どれもかなりの大きさですが、一番大きなものでも、レストランとタンチョウ放飼場の間に植栽しているもので、幹まわり1.4メートル位、推定樹齢30数年程度です。開園以来10年、大樹といわれるのはまだ先のことです。

(平原 徳生 Norio Hirahara)

飼育よもやま話

Animal Episode

ある質問

One of visitors' questions

動物園のことをあまり知らない一般の人と飼育係の仕事の話をしているときに、よく質問される事柄の一つとして「同じ動物の世話をずうっとしているのですか」という質問があります。なぜこのような質問がでるのかと考えてみると、テレビで飼育係のことが取り上げられるときに、一人の飼育係と1頭(羽)あるいは数頭(羽)の動物とのほのぼのとした関係がクローズアップされ、その関係が長く続くものとテレビを観ている人々は思い込んでしまうのだと思います。

そこで今回はその質問について、詳しく解説してみようと思います。その前にこの話に必要な動物園用語を説明しておきます。一人の飼育係が世話をする動物をその飼育係の『担当動物』といいます。その担当動物の種類が変更になることを飼育係の『担当がえ』といいます。ついでに話しておく、飼育係は普通2人でグループを組んでいて、一方の飼育係の人が休みのときは、出勤しているもう一人の飼育係が休んでいる人の担当動物の世話もします。このことを『代番』といいます。代番のときはいつもより1時間くらい早く出勤して、2人分の飼育係の仕事をします。

担当がえは大体毎年のように(主に春)に行われますが、すべての飼育係が該当するわけではなく、飼育係全体の3分の1か半分くらいの人が担当がえになります。一度にほとんどの飼育係の担当がえをすると、動物の飼育に大きな影響を及ぼすからです。

担当がえの具体的な例を示しますと、私の場合は今春で10年になりますが、子ども動物園(リス、プレーリードッグ、ワラビー)と教育普及が3年、鳥類・水系ゾーン(ワシタカ)と教育普及が1年、家畜の原種ゾーン(モウコノウマ、ヤク、アジアノロバ)が2年、再び子ども動物園(ワラビー、カメ、プレーリードッグなど)と教育普及が約1年半、草原ゾーン(セーブルアンテロップ、ツル、ハゲコウ)が2年、家畜の原種ゾーンが半年というように担当がえになっています。この例は1番担当がえの回数の多い場合で、10年間に2回しか担当がえがなかった人もいます。大体3~4年で担当がえになる場合が多いです。

毎年担当がえをする季節になると、飼育係の人は期待と不安で落ちつかない毎日を過ごします。今春はだれが、どこに担当がえになるかな？

(宝川 範久 Norihisa Takaragawa)

アライグマ、タヌキ、それとも…。

Raccoon, Raccoondog, or…?

動物には御覧になったときの第一印象がそれぞれに異なります。ほとんどの人が「かわいい！」と歓声をあげられるのがレッサーパンダです。ことに女性には大変もてるようで、長い時間、うっとりとながめておられる方をよく見かけます。担当者は、その動物にだんだん似てくるとよく言われますが、私が一番あやかりたいこの部分はなかなか授からないようです。



レッサーパンダを観察しているとき、知らぬ振りをしてお客さんの色々なつぶやきに聞き耳を立てています(決して不純な気持ちからではありませんよ)。そのうちに、あることに気づくようになりました。それはレッサーパンダという種名があまり知られていないことなのです。レッサーパンダという名前をご存じなのは10人のうち6人ぐらいのようです。間違える名前が一番手がアライグマで、間違え派の7割くらいです。タヌキは3割くらいでしょうか。私はこう推理してみました。おそらく名前を間違えておられる方はレッサーパンダという動物はよく知っているのだが名前が浮かんでこない。そこでマンガチックに描かれたアライグマなどの姿にだぶらせてしまうのではないかと。そして私は、この事件の原因はジャイアントパンダにありと結論しました。パンダという名前と白黒のジャイアントパンダのイメージがあまりに強く結びついているせいなのでしょう。しかし、皆さん。パンダという名前は、もともとはレッサーパンダのものだったのです。その後、あの白黒のパンダが発見されて、ジャイアント、レッサーという語がくっついたというわけです。でも、中には違いのわかるお客さんもおられるようで、「私、ジャイアントパンダよりもこっちのほうがずっと好き。だってかわいいんだもん。」なんていうことを聞きますと自分が褒められたようでつい顔がゆるんでしまいます。

なんとか二世をと願っているのですがなかなかうまくゆきません。普段、神頼みなどしない私ですが、今回ばかりは神様にお願いしてみようと思っています。

(松本 和人 Kazuhito Matsumoto)

動物公園日誌から

From Zoological Park Diary

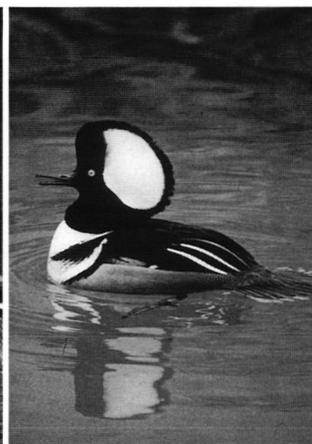
'94年 8月1日～'94年12月31日

- 8月1日 草食獣の青草, ソルゴーにかわる
- 〃 ムギワラトキの雛, 死亡
- 8月3日 ゾウ, 日射しが強いので午後2時に収容
- 〃 レッサーパンダ, 暑いので室内出入り自由とする
- 8月4日 オランウータン(ナナ), 初めてプールにつかる
- 8月5日 チンパンジー, 暑さのため日中ほとんど動かさず
- 8月6日 ツメバガン, 抱卵開始
- 8月8日 フクロテナガザル, 池改修後初めて放飼する
- 8月13日 マントヒヒ雄, 死亡
- 8月14日 リスザル, 1頭繁殖
- 8月15日 クロヅルの雛, 完全に飛翔できるので羽を仮切りする
- 8月16日 ゾウ雄, かなり興奮しマウントする
- 8月17日 ゴリラ雌, よく水遊びしている
- 8月20日 ヤク出産するが早産で, 子は起立不能
- 8月21日 キリン雌, ハートマンヤマシマウマに追われ横転
- 8月22日 ダチョウ, 1羽孵化(人工孵化)
- 8月23日 ヤクの子, 死亡
- 〃 ゴリラ, 雌雄のこぜり合いが続く
- 8月24日 ゾウ, 雌に破傷風ワクチン注射
- 8月27日 アメリカアカリス, 1頭死亡
- 8月28日 エミュウ, 暑さで弱っているなので水をかける
- 〃 「ワンポイントウォッチング」開催(リスザル)
- 8月31日 ホオジロオナガガモ, 1羽死亡
- 9月1日 動物愛護週間特別展「国際保護動物の現況」開催(～30日)
- 9月2日 イワトビペンギン, 換羽始める
- 9月4日 マレーバク, 雄の追尾行動が激しい
- 9月5日 マカロニペンギン, 換羽始める
- 9月7日 セキショクヤケイ1羽, 夢見ヶ崎動物園へ寄贈
- 9月8日 アビシニアコロブス, 1頭繁殖
- 9月10日 ワタボウシバンシェ, 2頭繁殖
- 9月11日 シロガオマーモセツ, 1頭死亡
- 〃 「敬老の日記念行事」開催
- 9月14日 バードホールのヤツガシラ, 巣箱に出入りしている

- 9月14日 ラッパチョウ, ディスプレイしている
- 9月15日 イワトビペンギン, 換羽終了
- 9月16日 キリン雌(アジム), 跛行
- 〃 ヒキガエル, 脱皮
- 9月17日 シロガオマーモセツ, 2頭繁殖
- 9月18日 「動物愛護週間特別講演会」開催
- 9月20日 マカロニペンギン, 換羽終了
- 〃 カンムリバト, 抱卵中止
- 9月21日 ハートマンヤマシマウマがキリンを追いつくため, キリンのみ放飼
- 〃 フクロテナガザル, 入舎をいやがる
- 9月23日 レッサーパンダ, 竹の食べかたが少ない
- 9月24日 キリン, ハートマンヤマシマウマと分けて放飼後, 落ち着く
- 9月25日 「ワンポイントウォッチング」開催(ゾウガメ)



- 9月26日 ホンドザルに個体識別のための入墨を入れる
- 〃 ビグミーマーモセツ, 1頭繁殖
- 9月27日 コモンマーモセツ, 3頭繁殖するが2頭は親に咬まれていた
- 9月30日 チンパンジー放飼場でヘビを捕獲
- 10月1日 サル比較舎の遮光ネットを除去
- 〃 特別展「様々な環境と動物たち—そのすばらしい適応—」開催



通常時

ディスプレイ時

- 10月2日 オウギアイサ, ディスプレイ開始
- 10月3日 特別展の展示設営始める
- 〃 ゴリラ雄の左足の爪がはがれる
- 〃 ネズミガン1羽死亡
- 10月4日 ショウガラゴ, 交尾
- 〃 動物科学館, 本日より暖房



開催風景 講師は, 呉地正行氏

- 10月5日 レッサーパンダ、竹を食べだす
- 10月6日 ワタボウシパンシエ、繁殖していたが子が床に落ちていたので人工哺育
- 10月9日 小動物コーナー、混雑
- 10月10日 オセロット、健康維持のため絶食させる
- 10月11日 カビバラ雌、検疫終了、子ども動物園へ移す
- 10月16日 獣舎にサシバエが異常発生
 // 「自然と遊ぶ教室」開催
- 10月17日 カビバラ雌、初めて展示
- 10月19日 ホンドザル、発情シーズンが近づき気が荒くなってきた
- 10月21日 ハシビロコウ、1羽死亡
- 10月24日 全園停電
- 10月26日 ホンドザルとアシカをハイビジョン放送のためNHK撮影
 // 飼育センター1階に「ミニギャラリー」設置
- 10月27日 クサガメ、冬眠準備に入る
- 10月28日 「動物を計る会」の予行演習を行う



ホルスタインの「シバくん」は280.3kgありました。

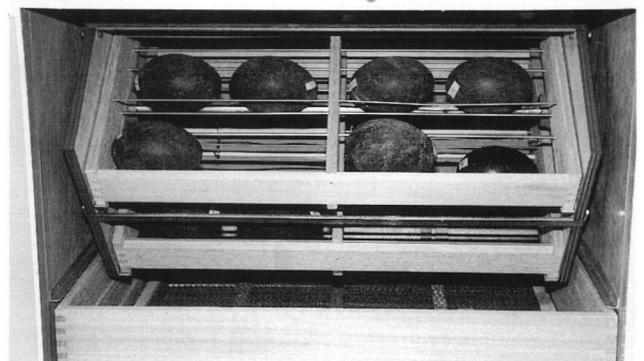
- 10月30日 「動物を計る会」開催
- 11月1日 アカカンガルー、1頭死亡



冬中カメはこのポプラの葉の下で眠っています。

- 11月2日 カメ池のカメ、冬眠
- 11月3日 「秋のZooクイズラリー」開催
- 11月5日 モウコノウマ、破傷風予防注射実施
- 11月7日 タンチョウ池で展示のハシビロコウ、キジ舎予備室に移す
- 11月8日 ウサギ舎に保温用赤外線灯をつける
- 11月9日 ゾウ、2回マウントする

- 11月12日 第2土曜日で小動物コーナー混雑
- 11月15日 ヨーロッパバイソン、木柵修理のため放飼せず
- 11月16日 類人猿放飼場の芝刈りを行う
- 11月20日 マレーバク、妊娠で腹部目立ってくる
- 11月23日 ゴリラ雌、プレゼンティングがみられる
- 11月24日 ゴリラ雌、頻繁にドラミング
 // 午前中、ワオキツネザルとフクロテナガザルがよく啼く
- 11月25日 マレーバク、歯の脱換あり
 // 野生のマガモ、スイギュー池に飛来
- 11月27日 ゾウ舎、フロアヒーターをつける
 // 「ワンポイントウォッチング」開催(チンパンジー)
- 11月28日 カムリバト、抱卵確認
 // フクロテナガザル、獣舎に入らず
- 11月29日 フクロテナガザル、強制的に獣舎に収容
- 11月30日 オオカンガルーの子、袋から出てる時間が多くなる
- 12月4日 「クリスマスのおどい」開催
- 12月5日 キジ類にニューカッスル病のワクチン注射
- 12月7日 ゲルディーモンキーの子、1頭人工哺育
- 12月9日 ホンドザル、発情期になり争いが絶えない
 // マガモ、ディスプレイがみられる
- 12月12日 カンガルーなどの交換動物を搬出
- 12月13日 ハートマンヤマシマウマの子、セーブルアンテロープに突かれる
- 12月16日 カムリバト、1羽死亡
- 12月19日 雄ゾウの室内に電気柵をつけ、糞投げ防止を図る
- 12月22日 ホルスタインがウマの放飼場に侵入
- 12月23日 セーブルアンテロープ、雄1頭搬出
- 12月25日 このところ雌ゴリラが放飼場に出るのをいやがる
 // 「ワンポイントウォッチング」開催(ビーバー)
- 12月27日 トナカイ雄の右角落ちる



12月29日 エミウの卵6個、孵卵器に入れる

平成6年度写真コンクール入賞作品
POHOT CONTEST



金賞
親子
吉野 巖



銀賞
◀
たわむれ
矢野 哲郎
▶
おしっこ
小松 陽一



銅賞
◀
ふたりの会話
高橋 和也
▶
あのね
関 美恵子
◀
春うらら
平野 友也



特別賞
パフォーマンス
岩瀬 清

※ 敬称略

健康管理センターから

From the Animal Health Center

どっちが幸せ？

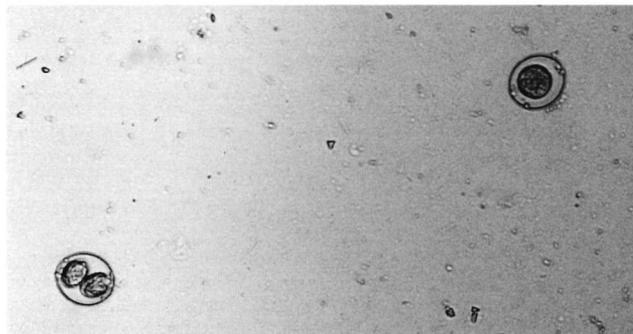
Which is happier, animals in the zoo or wild animals?

「動物園にいる動物はかわいそう。檻や囲いの中に閉じこめられているから。」という声を最近よく耳にします。ま、動物園有害論や動物園無用論のような難しい問題は長くなるので今回はチョットおいといて、動物園の動物は野生状態よりも恵まれている？というお話です。

もし、みなさん人間が本当に自由な、野生状態で生きられるところがあったら、それはそれですばらしいと思います。イメージしてみてください。文明から隔離され、身の回りの道具はなく、けれど豊かな大自然の中、食物は山や海の恵みを採って暮らす……結構ですね。ただ一つの不安は、そう、病気になったら？大自然の中というのはそれだけ多くの病原菌や寄生虫がウヨウヨいるわけですから。それで病気になったり、命を落とす可能性は著しく高く、人間の平均寿命はおそらく10歳代と言われています。これは現在野生状態に暮らしている動物にも同じ事が言えるわけで、野生状態の動物というのはまさに寄生虫のデパート！といえるような一例が先日ありました。

千葉市動物公園の中では、ゾウの隣にミーアキャットの小さい放飼場があります。ここの大改修が先日行われ、それに伴ってアフリカから5頭のミーアキャットがやってきて、仲間入りしました。動物病院にておきまりの検疫ということになったのですが、飛行機でやってきたわずか3日後、一頭が急死してしまっただけです。解剖の結果、おなかの中から小さくて白い糸のような寄生虫や、もっと大きい紐のような寄生虫が何種類かゾロゾロと出てきました。残念ながらアフリカあたりにいる寄生虫はよくわかっていないものが多いため、他の先進国にいる近縁の寄生虫のデータを参考に寄生虫の退治を始めました。(駆虫といいます) おなかの中にいるわけですから、ミーアキャットに薬を食べてもらうか飲んでもらう、或いは注射するのですが、寄生虫にとってはいわば毒になって、ミーアキャットには余り害のない(副作用が少ない)薬をセレクトして、餌に混ぜたり、

いずれもミーアキャットのおなかにいた寄生虫の一部



原虫のオーシスト(寄生虫の卵みたいなもん、卵とは違うのですが) 倍率100倍



線虫の仔虫 倍率100倍

水にいれたり、ミーアキャットをつかまえて注射したりと(注射は動物にストレスが大きいのであまりしたくないのですが)悪戦苦闘。やっとおなかの中がきれいになったミーアキャットたちは来園した頃に比べて体重も増え、元気になって検疫を終えて新装になったミーアキャット舎へと引っ越しました。

それにしても……もしも自分が大自然の中、野生状態で暮らしていて、あれだけ寄生虫がいたら？と思うとゾッとします。ちなみに動物の種類にもよりますが、動物園で暮らしている動物の平均寿命は野生状態の同種の動物より概して長いそうです。

ま、ミーアキャットたちのおなかの中がきれいになって、めでたしめでたし。(市川 心一 Shinichi Ichikawa)

平成7年度行事予定表

| | | | |
|-------------|-------------|--------------|------------------------|
| 写真コンクール | 応募は10月10日まで | 秋のZooクイズラリー | 11月 |
| 羊の毛刈りと紡毛教室 | 5月 | クリスマスのつどい | 12月 |
| 愛鳥週間記念行事 | 5月 | 新春特別展示 | 1月 |
| ゆかいな森の音楽会 | 5月 | 新春特別行事 | 1月 |
| 動物愛護標語募集 | 7月 | バードウォッチング | 1月 |
| サマースクール | 7月 | 春のZooクイズラリー | 3月 |
| 動物愛護週間特別展示 | 9月 | 動物映画会 | 日・祝日・春、夏休み中 |
| 動物愛護週間特別講演会 | 9月 | ワンポイントウォッチング | 4,5,6,9,10,11,3月の第4日曜日 |
| 自然と遊ぶ教室 | 10月 | | |
| 動物を計る会 | 10月 | | |

くわしくは市政だより(全市版)でお知らせします



ベニバシガモ